

主人は言った。「言うておくが、誰でも持っている人は、さらに与えられるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられる。」（ルカ 19:26）

徴税人ザアカイの家で「今日、救いがこの家を訪れた」と喜びに満ちた主イエスの言葉に人々は聞き入っていた。主イエスは、エルサレムに向かい、神の国をすぐにも実現する（ローマからの解放）と、人々が期待しているのを察知し、続けて一つの譬えを話された。

ある身分の高い人が、王の位を受けるために、遠い国に旅立つことになった。そこで、十人の僕を呼んで、10ムナの金を、1人に1ムナずつを渡し、「私が帰って来るまで、これで商売をきなさい」と命じた。1ムナは100デナリオンで、1デナリオンは労働者の1日の賃金に相当する。1ムナは100日分の賃金に当たり、特別に高い金額ではない。

続いて、その国の市民は、身分の高いその人を憎んでいたもので、使者を送り「我々はこの人を王に戴きたくない」と言わせたという言葉が挿入されている。

さて、彼は王の位を受けて帰国すると、1ムナを渡しておいた僕たちを呼んで来させ、どれだけ利益を上げたかを報告させた。最初の僕が進み出て、1ムナから10ムナ儲けましたと報告すると、王は「よくやった。良い僕だ。お前はごく小さなことに忠実だったから、十の町を支配させよう」と褒めた。二人目の僕は1ムナから5ムナ稼いだと報告すると、五つの町を支配させようと、同じように褒めた。ほかの僕が来て、「ご主人様、これがあなたの1ムナです。布に包んでしまっておきました。あなたは預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものも刈り取られる厳しい方なので、恐ろしかったのです」と言った。王は、「悪い僕だ。その言葉のゆえにお前を裁こう。私が預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものも刈り取る厳しい人間だと知っていたのか。ではなぜ、私の金を銀行に預けなかったのか。そうしておけば、帰って来たとき、利息つきでそれを受け取れたのに」と怒った。王は傍に立っていた人々に、「その1ムナをこの男から取り上げて、10ムナ持っている者に与えよ」と命じた。僕たちが、「ご主人様、あの人はすでに10ムナ持っています」と答えると、王は「言うておくが、誰でも持っている人は、さらに与えられるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられる」と応じた。この譬えは、持てる者はますます持ち、持たざる者はますます失っていくという「マタイ効果」と言われ、社会で起こっている事象を言い当てている。しかし、聖書のメッセージは、神から与えられた能力を惜しまず発揮すれば、豊かな人生が約束されるという諭しではないか。著者ルカは、忠実に働いて稼いだ者には、それにふさわしい町を支配させると譬えている。マタイ福音書からの引用であろうが、権力支配を嫌う主イエスの言葉とは思えない。

「我々は、この人を王に戴きたくない」という言葉は、ヘロデ大王の死後、アルケラオがユダヤ、サマリア、イドマヤの領主になることに反対したユダヤ人がローマ皇帝に送った使者の文面ではないか。領主になって帰国したアルケラオが、「私が王になるのを望まなかったあの敵どもを、ここに引き出して、私の目の前で打ち倒せ」と発した言葉に結びつく。あるいは、エルサレムは紀元70年にローマ軍によって崩壊されるが、主イエスを王（メシア）と認めないユダヤ人への裁きと解しているとも考えられる。主イエスを信じない者たちへの終末的裁きを示唆する記述ではないか。